多摩将来計画実行計画最終報告案 20210126 対する 質問･意見

2021 年 2 月 24 日　荒井容子（社会学部）改定版（2 月 25 日）

1 この「多摩将来計画実行計画最終報告案」は多摩キャンパスの防災対応を踏まえた施設設備計画の完遂を前提にして考えられているのでしょうか。

その場合、東日本大震災時に自覚化された、多摩キャンパス内の施設の対災害（火災）も含む脆弱性が、10 年経った今も改善されず、その理由が説明されていないことをどのように踏まえているのでしょうか。

具体的には 6 号館（社会学部棟）9 階北側の研究室は一つの直通階段としかつながっていず、火災場所によっては避難経路を確保できない状態になっています。そのため、東日本大震災当時、社会学部資料室の職員から、そのことが問題になっていると、間接的に情報を得ました。その後、火災場所によって、東側の階段をつかった非難ができない場合、西寄りの窓を乗り越え、8 階の屋根部分を渡り、さらに向かい側の窓を乗り換えて、9 階南側廊下に繋がっている直通階段を使って避難することが想定されていると聞きました。

本来、9 階西側に、北側の廊下と南側の廊下をつなぐ、安全に通行できる何らかの通路の設置を検討すべきかと思われましたが、その後、対応されたのは、北側廊下に簡易な踏み台が置かれ、また、南側の窓には鍵をかけないようにするという対応だったと、これも噂で聞きました。

これは当面の措置で、今後は何らかの対応がなされるのであろうと思っていましたが、10 年経っても、災害時の避難に関する特別な説明もないまま、そのような安易な措置で現在に至っています。簡易なものであっても、通路をつくることができないのかどうか、その点の説明はいまだにありません。利害関係者として積極的問合せをしてこなかったのですが、キャンパス内の防災管理としては当然、すでに 10 年前に気が付かれていたことのようですので、このようなことが放置されているのは、多摩キャンパスの施設についての防災管理、そのための整備に関する不十分さの一端を表しているのではいなかと懸念しています。

私の勘違いであればその点も含め、当該部局に確認していただきたく、よろしくお願いします。

2 多摩キャンパスの植栽管理に関する現状と将来についてどの程度の確認がなされた上で、計画は立てられているのでしょうか。

この「多摩将来計画実行計画最終報告案」は、多摩キャンパスの自然の豊かさを活かすことを重要な要素とし位置づけていますが、多摩キャンパスの植栽管理についての現状をどのように認識されているのでしょうか。

まず植栽管理を担当する部署と職員配置は十分でしょうか。

古い情報を恐縮ですが、10 年前、キャンパス移転依頼、植栽管理を担っていた職員が、すでに直接雇用から、間接雇用に変っていました。しかし、継続して意欲をもって仕事をさ

れているようでした。ところがその数年後、まだ定年とは思われない年齢のように見えましたが、多摩キャンパスから離れられてしまったようです。理由等よくわかりませんし、こちらに調べる余地もないのですが、当時、林間を歩くキャンパスガイドツアー等を行うときには、林間の道を歩きやすく整備してくださり、木製チップなどを歩行路に播いてくださいました。近隣の方たちや、体育の講義でウォーキングコースを使うこともあるので、常時、そのような配慮をされていたのではないかと想像しています。今、そのような担い手、そして多摩キャンパスの植栽を全体としてきちんと把握し、手入れする職員体制は整備されているのでしょか。その方たちがいらした当時でも、すでに林間の道にシノ竹が生い茂りはじめ、道のわきが崩れる恐れがあること、キャンパス内の里山管理が必要であること、しかし植栽担当の職員の方たちの力では手に負えないこと、HELP など、当時、遠隔地の里山管理支援ボランティアをしている学生サークルの人たちとのつながりがあったようですが、そういうサークルに、遠隔地だけでなく、自分たちのキャンパスの里山管理のボランティアをしてくれればいいのだが、とつぶやいていらっしゃいました。

3　体育館の管理・整備をし、体育会の大会等時にも対応するスポーツ関係の職員体制の現状と将来について、どの程度の確認がなされた上で、計画は立てられているのでしょうか。

数年前、業務受託者に雇用されて体育館の仕事他をしていた体育館職員が雇用問題を労基署に訴え、多摩キャンパスの清掃・守衛・その他の施設の指定管理を請け負っている業者と被雇用者の問題が発覚しました。そこから、体育館の整備・各種大会の手伝いにそれらの職員が動員されていること、以前は嘱託職員として大学の直接雇用であったが、現在は指定管理者雇用に雇替えされていることを知りました。

そのような方たちが、契約条件を超えて、スポーツ関係、体育関係のグランド整備、機器整備、大会時の準備、けが人対応等、さまざまな危機管理を、自分たちの責任範囲を超えて担わされていることを知りました。

多摩キャンパスでスポーツを行なううえで、それを支える体育・スポーツ施設管理に携わる職員体制についてはどのように把握したうえで、構想を練られているのでしょうか。

4　清掃・施設運営・警備（守衛等）を担う職員体制の現状と将来について、どの程度の確認がなされた上で、計画は立てられているのでしょうか。

上記３と類似の質問・疑念です。

数年前に、上記で紹介した事件に際し、改めて、清掃・施設運営の基盤となる仕事など、当該業務に関わる非正規職員のみなさんの献身的努力によって、かろうじてキャンパスの機能が賄われているのではないかという、ありがたさとともに、危機感を感じました。その後、問題をフォローできていませんが、このような課題は解決されているのでしょうか。

多摩キャンパスは城山校地も含め、広大な敷地があるので、その管理体制を組むことは容易ではないと想像されます。現在の業務委託体制で、果たして、雇用される職員の体力、意

欲を維持できるのか、教育機関としてのキャンパスで働く職員としての資質を維持できるのか、こうした現状と将来について、確認できているでしょうか。

5 A 棟ホールの電気系統等を現代の水準に整備しなおし、基本的に質の高いこのホールを活かしていく手だてを考えてください。

毎秋、一週間にわたる映画祭を 1990 年から続けている多摩シネマフォーラムという市民活動があります。毎回、大勢の鑑賞者を集め、映画賞の授賞式では、名だたる俳優が授賞式に出席してきました。その関係者が 2018 年秋、A 棟ホールを受賞会場の候補として下見に来ました。そのとき、A 棟ホールが、きちんとした舞台、複数の控室を備え、ホワイエもあり、トイレ等も完備していることで、他の近隣の大学のホールと比べ物にならない、よいつくりのものだと評価していました。問題は電気系統が古くなっているということだと語っていました。鉄道駅からバスを使わなければならない不便さを想定しても、人気のあるこの映画祭の受賞式であれば、その不便さも押して観客を集められるとのことで、候補施設にしたいと話されていました。自分たちで 100 万円ほどき移動設備を用意すればなんとかなると思うとのことでした。通常の借用代金を払って借りることを想定して検討されいました。ところがこの方たちが本格的な検討の前に、このような人気の映画祭の会場にすることを、そんな大きなイベントには対応できないと（当該団体が自分たちですべて運営するということなのに)、多摩事務部総務課の方から断ってしまいました。

とても残念なことでした。

A 棟ホールはその構造的質の良さを活かし、現代にあった整備を施して、学生の音楽系サークル、演劇・ダンス等の関係サークルも使えるようにし、さらに周辺の住民からも期待されるようなさまざまな文化イベントをここで開催し、多摩キャンパスをこの地域の劇場文化の拠点にしていくことを考えるべきです。そして、このような文化活動や文化イベント自体を、大学の教育活動の一環に組み込んでいくべきでしょう。

是非、A 棟の現在の劇場としての質を活かし、内装・設備を充実させ、各種イベントを誘致できる経営を学生も巻き込んで展開していく拠点にしていってほしいです。

6 HOSEI2030 で、課題として掲げられていた課題 1「バス問題」はどのように把握し、その解決を構想しているのでしょうか。その提案が見当たりません。きちんとした解決策を提言してください。

バスの運賃が高い、登校・下校時間帯にバス便が不足している。この点が、学生が多摩キャンパスに通学するうえで、もっとも大きな障害になっていると考えられます。これはずっと以前から問題として意識され、これまでさまざまな取り組みがなされてきましたが、今なお、抜本的な解決に至っていません。しかし、すでに出されていた提案の中には、学生証にバス定期を組み込み、全学生にバス代を支給するという案など、まだ取り組んでいな施策もあります。この検討を本格的行ったのでしょうか。

居住地に関係なく、全学生にバス定期を支給することにすれば、関連バス会社との交渉でも、増便等、いろいろ有利な交渉ができるのではないでしょうか。他方で、このようなバス定期の提供は、学生にとって、寮に匹敵する便利さを提供することになるのではないでしょうか。学生たちは登校日を減らすために、無理矢理、受講する講義を固める必要はなくなり、また長期休暇中でも、サークル活動や図書館利用等で、時間的制約以外は負担なく、気軽にキャンパスに来ることができるようになります。

そうすれば学生たちは自ずと、学部を超えて交流しはじめるはずで、すでにある施設をどんどん活用していくと想定できます。つぎつぎと面白いキャンパス利用を考えだしていくはずです。

7 HOSEI2030 で、課題として掲げられていた課題2「食堂問題」はどのように把握し、その解決を構想しているのでしょうか。その提案が見当たりません。きちんとした解決策を提言してください。

安くておいしい食事をとれることができることは、学生たち、若者たちにとって、キャンパスにくる大きな動機付けになります。学生たちは、どこの大学の食堂が美味しい等、よく話題にしています。

もともと、長期休暇のある大学での食堂経営は赤字が必至です。他の事業でその赤字を補ってきた大学生活協同組合は、2000 年頃からの大学子会社経営導入、生協事業の黒字部門へ子会社事業の進出等で、赤字補填をするサイクルを断ち切られてきました。このような経過から、多摩キャンパスの食堂も、大学で補填しなければ、時間と質を良質に保つことができない状況になってきました。子会社を通じて黒字部門進出によって事業収益を、今度は大学として、食堂支援につぎ込まなければならい自体になってきたのだと言えます。

そこで良質な食事を提供でき、また朝、夕も提供でるようにするには、大学としてどのような補填が必要か、既存の食堂経営者（大学生協も含め）とともに検討すべきです。

学生たちが安心し、また楽しみにできる食事の提供が保障され、また‘嬉しい’食事をしながら友だちや教職員と語り合える環境をつくってくことこそ、学生たちが多摩キャンパスに来て学ぶ、その楽しみを支える大きな要因の一つになると思います。

昼休み、から揚げドンを嬉しそうに食べながら、語り合ってる学生たちが、朝も夕方も、そんなふうに食事をとることができれば、登下校の分散とも関わり、よい循環ができるのではないでしょうか。以前に挑戦的に行われた朝食提供も、早々に打ち切らず、学生たちの生活の中に根づくまでもう少し辛抱して継続し、安価での提供していけるサイクルへと発展させることを目指すべきではないでしょうか。これも多摩の複数の学部の研究領域と関わる実践になると思われます。

8 学生たちが通常利用している脇道をきちんと常時、整備していく計画を盛り込んでおいてください。

経済学部の学生は、東側のバス道路を渡って、林間の道を上り、直接、経済学部棟に通っています。

現代福祉学部の学生は、トンネル手前の左脇道の林間を上り、現代福祉学部棟前庭の脇から庭に出て、現代福祉学部棟に通う学生もいます。

スポー健康学部の学生も林間の道を利用しています。

この道は滑りやすいので、林間の雰囲気を壊さない形で、常時、木道として整備するように心がけると、学生たちにとって快適な通学路になると共います。そういう細かい気配りが求めれていると思います。